

2019年11月10日

2019年FIA-F4選手権シリーズ第7大会 参戦報告書

HFDP事務局 阿部 正和

2019年FIA-F4選手権シリーズ

HFDP参加選手レポート

第7大会（第13戦／第14戦） 参戦レポート

11月2日（土）～3日（日）、ツインリンクもてぎ（栃木県）でFIA-F4選手権シリーズ第7大会（第13戦、第14戦）が開催されました。HFDP（Honda・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5 三宅淳詞（HFD P/SRS/コチラレーシング。1999年3月17日生まれ。20歳）、#6 太田格之進（SRS/コチラレーシング。1999年6月18日生まれ。20歳）、#7 佐藤蓮（SRS/コチラレーシング。2001年8月5日生まれ。18歳）、#8 小山美姫（#USLETE Honda Racing。1997年9月5日生まれ。22歳）が出場しました。

**佐藤、8連勝全11勝でシリーズを締めくくる。**

**HFDPはFIA-F4選手権全14戦、14ポールポジション、14勝でシリーズ完全制覇。**

■公式予選（30分間）：天候/晴れ 路面/ドライ

週末のツインリンクもてぎは秋晴れに恵まれ、30分間の公式予選は、土曜日午前8時から始まりました。コースオープンと同時にHFDPの4人はコースイン、朝、気温が低下して冷えた路面の上で慎重にタイヤのウォームアップを開始しました。前大会で2019年度のシリーズチャンピオンとなった佐藤と、練習走行から快調だった三宅が順調にタイムを伸ばし上位につけましたが、太田はクリアラップがうまくとれず納得のいくタイムが出せません。一方小山もセクター一単位では好タイムで走れるものの、集中心が途切れて1ラップをまとめ切れず、中団から抜け出せません。



一方、佐藤は上位にはいたもののなかなかトップタイムを出せずにいましたが、セッション終盤になってようやく1分57秒554を記録してトップに立ち、続けて自己ベストを更新してセッションのファステストタイム、セカンドファステストタイムを記録しました。この結果、佐藤は第13戦、第14戦ともポールポジションを獲得、第13戦では三宅が4番手、太田が6番手、小山が12番手に続きました。第14戦では2番手に三宅、7番手に太田、14番手に小山が続きました。

第13戦公式予選結果

予選1位	#7 佐藤 蓮	1分57秒438
予選4位	#5 三宅 淳詞	1分57秒724
予選6位	#6 太田 格之進	1分57秒794
予選12位	#8 小山 美姫	1分57秒924

## 第14戦公式予選結果（タイムアタックのセカンドタイム順に決定）

予選1位 #7 佐藤 蓮 1分57秒531

予選2位 #5 三宅 淳詞 1分57秒751

予選7位 #6 太田 格之進 1分57秒902

予選14位 #8 小山 美姫 1分58秒010

## ■第13戦決勝レース（13周）：天候/晴れ 路面/ドライ



快晴の空の下、午後1時9分に13週の2019年シリーズ第13戦がスタートしました。スタートに自信を持っている佐藤はポールポジションから先頭に立ち、1コーナーまでに2番手と大きな間隔を広げてレースを始めました。4番手からスタートした三宅はスタート加速が鈍く後方集団に取り込まれてしまい、5コーナーの立ち上がりでコースから押し出される形で順位を大きく下げてしまいました。

一方6番手スタートの太田は周囲の選手と激しくポジション争いをしていますが、S字コーナーで川合選手と並走し最終的に接触してしまいました。その後方でも同時に接触が起き、太田は走行を続けられたもののコースオフ車両が生じたため、オープニングラップのうちにセーフティーカーが介入しました。

この時点で首位は佐藤、太田は4番手、三宅は8番手、小山は11番手につけていました。セーフティーカーは4周完了時点で退出、レースは5周目から再開されました。4番手にいた太田はS字コーナーからV字コーナーの過程で前を行く平良選手をかわして3番手へ進出しました。



佐藤は首位の座を守ってレースをリードしましたがレース後半、後方の平木選手が迫ってきました。しかし佐藤は平木選手を落ち着いて押さえ込み、そのまま13周を走りきって優勝のチェッカーフラッグを受けました。一方、3番手につけていた太田は接触の影響で操縦性が悪化したためかペースが上がらず、10周目にオーバーランして順位を落とし、最終的には8位でフィニッシュしました。三宅は9位、小山は10位でレースを終えました。

## 【FIA-F4選手権シリーズ第13戦・レース結果】

#7 佐藤 蓮 決勝1位 (30分39秒702 ベストタイム 1分58秒259)

#6 太田 格之進 決勝8位 (30分51秒440 ベストタイム 1分58秒876)

#5 三宅 淳詞 決勝9位 (30分51秒880 ベストタイム 1分58秒823)

#8 小山 美姫 決勝10位 (30分52秒170 ベストタイム 1分58秒867)

## ■第14戦決勝レース（13周）：天候/晴れ 路面/ドライ



日曜日、ツインリンクもてぎの上空には雲も広がりましたが太陽が隠れることはなく秋晴れのドライコンディションで午前8時19分、13週のシリーズ第14戦が始まりました。佐藤はいつものようにポールポジションからみごとな加速を見せ、首位を守ったまま第1コーナーへ飛び込みました。前日レース後にクラッチの交換をしてスタートダッシュに備えた三宅も2番手から好スタートを切って2番手に続きました。しかし前日のレースで格闘戦を繰り広げタイヤ消耗が進んでいたため、前日は

スタート早々リタイアしてタイヤに余裕を持っていた川合選手のアタックを防ぐことができずヘアピンで3番手に後退しました。

太田はポジションを守り、その後方では小山が好スタートを決めて順位を1つ上げてレースを始めました。2周目、第3コーナー先で3台がリタイアする接触事故が発生したためセーフティカーが介入しました。このアクシデントを避けるため小山はブレーキを踏み順位を落としてしまいました。この段階で首位は佐藤、3番手に三宅、8番手に太田、13番手に小山が並びました。



6周目からレースが再開されました。佐藤は1秒弱後方に川合選手を従えてスタートするとファステストラップを連発して川合選手との間隔を広げにかかりました。しかし川合選手も11周目にはファステストラップを書き換えてペースを上げて佐藤を追い、2台は1秒弱の間隔を保ったまま3番手の三宅を引き離していきました。



しかし佐藤は落ち着いた走りで川合選手にスキを見せず押さえ込んで13周を走りきり前日に続き優勝を飾りました。佐藤はこれで通算8連勝、シーズン11勝目を記録して2019年シーズンを締めくくりました。3位には三宅が入賞、太田は7位、小山は11位でレースを終えました。またHFDPは今季のFAI-F4選手権シリーズ7大会14戦全戦でポールポジションと決勝レースでの優勝を記録しました。

### 【FIA-F4選手権シリーズ第14戦・レース結果】

#7 佐藤 蓮	決勝1位	(30分24秒707)	ベストタイム	1分58秒130)
#5 三宅 淳詞	決勝3位	(30分29秒290)	ベストタイム	1分58秒484)
#6 太田 格之進	決勝7位	(30分34秒600)	ベストタイム	1分58秒486)
#8 小山 美姫	決勝11位	(30分38秒644)	ベストタイム	1分58秒469)

■2019FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2019 シーズン終了時点)

1位 #7 佐藤蓮選手 311点

2位 #5 三宅淳詞選手 147点

6位 #6 太田格之進選手 125点

17位 #8 小山美姫選手 7点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点、)

■2019FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2019 シーズン終了時点)

1位 HFDP 350点

(各チーム最上位のみ計上。350点は全戦優勝で最高得点)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP/SRS/コチラレーシング 三宅 淳詞



第13戦ではスタートをミスして集団に飲み込まれてトンネル前で押し出される展開になってしまいました。オートポリスでもスポーツランドSUGOでもスタートが良なくてまた失敗したので、第14戦に向けてクラッチを交換してもらいました。そうしたらうまくスタートできました。でも佐藤選手もスタートが良くて前に出ることは出来ませんでした。3番手になってから、後から平木選手に詰め寄

られたんですが、このコースは抜きにくいということはわかっていたので落ち着いて走ることができました。悔しいけど3位が獲れて良かったです。開幕戦は運が良くて勝てたんですが、その後は崩れてしまいました。後半戦で感覚を取り戻すことができたのは、夏休みにいろんな走り方を勉強した結果だと思います。ただ、ポールポジションは獲れるようになったもののレースでは2位止まりでした。ある意味安定していたのかもしれないけど、優勝できなかったのは悔しいです。



●ドライバーズコメント：#6 SRS/コチラレーシング 太田 格之進



予選の順位はクルマのフィーリングが良くなかったうえ、自分の走りをまとめられなかった結果です。第13戦ではSC明けに完ぺきなスタートがきれて3位まで上がれました。でも1周目の接触で車にダメージがあったようでペースが上がらず、なんとかカバーしようと走っていたんですがコースオフして順位を下げてしまいました。流れが良くなかったです。3位を獲

れそうだったのに、それをキープして持ち帰ることができなかった自分の技術に反省が必要です。シーズン前半戦はずっと上位にいられたんですが、後半は本当に流れが悪くなってしまいました。自分でも原因がわかりません。クルマもメカニックも変わって自分の精神面も弱くて、いろんなことが悪い方向に噛み合ってしまったような気がします。



●ドライバーズコメント：#7 SRS/コチラレーシング 佐藤 蓮



予選は7、8周目をピークと設定してタイムを出そうと思っていましたが、トラフィックが多くて引っかかってしまって、結局10周、11周とかになってしまって、ピークが過ぎていたのでタイムが伸びきりませんでした。コースレコードを狙っていたので悔しいですけどダブルポールが獲れたのでよかったです。第13戦の決勝では、スタートは完ペキで逃げていたんですがSCでリセットされてしま

いました。後半はアンダーステアが出て厳しかったんですが、ミスをしなれば抜かれないと思いついて落ち着いてレースして勝てました。クルマを少し直して第14戦も勝てました。8連勝は今まで誰も成し遂げていない記録だと思うので誇らしいです。勝てるマシンを用意してくれたチームには感謝しています。今年は最後のシーズンだと常に追い込まれている意識を持って過ごしていたのでこれだけの成績を出せたのは嬉しいです。努力が結果に結びついたかなと思います。今後もこの気持ちを持ってF1目指して上に上がっていきたいです。



●ドライバーズコメント：#7 #USLETE Honda Racing 小山美姫



これまで一番集中しこれまでの復習をしっかりと準備したうえで迎えた大会でした。練習では6番手、5番手のタイムも出せ、ポテンシャルは確実に上がっていたと自分で思います。でも予選は大失敗でした。いざ予選になるとメンタルの問題が出てきて、「行きたい」が先行してしまつてまとまらず、ベストをつなぐことができませんでした。自分に負けました。レースではペースは良く、前に追

いついていったんですが、SCが長過ぎてやっと追いついたときには周回数が残っていませんでした。第14戦ではスタートが決まってその後のポジション取りも良く順位も上げられたんですが、2周目、目の前でクラッシュがあつてブレーキを踏んだら2台に抜かれてしまいました。再スタート後は、最終ラップには前に追いついたのに、結局行けませんでした。このシーズン、自分の順応性が低いことを思い知りました。Wシリーズと両方というやり方は自分で選んだ道で、そこから得たモノも大きかったんですが、結果を出さなければいけないFIA-F4では悪い方へ行ってしまったかもしれません。最後までクルマを壊さずに終わったのはよかったけれど、最初の2大会に出ればまた違った結果になっていたかなとは思っています。

